

といった意見もあった。

## VI. おわりに

平成22年度より看護師、看護助手を対象に勉強

会を実施した。

平成22年度、23年度とも勉強会を評価する意見が多く、そのニーズは高いと考えられるので、今後も定期的かつ継続的に開催したいと思っている。

## バンコマイシンの薬物濃度解析業務について

薬剤部 堀江 則友 矢野 佳孝

### I. はじめに

薬剤にはそれぞれ治験の結果を基に定められた用法・用量がある。しかし、同じ用法・用量でどの患者も同じ効果が得られるわけではなく、患者の臨床症状に応じて検討、調節していかなければならない。適切な治療効果を得るため、血液中の薬物濃度を実際に測定し投与量の調節を行うべき薬剤がある。たとえば、抗菌薬、強心薬、抗てんかん薬、抗不整脈薬、免疫抑制薬などがあげられる。そのような薬剤を使用している患者に対し、治療効果や副作用に関する様々な因子をモニタリングしながらそれぞれの患者に個別化した用法・用量を設定することを薬物治療モニタリング（TDM, Therapeutic drug monitoring）といい、薬剤師の専門性を発揮する業務の1つである。

### II. TDM実施薬剤について

薬剤部では約2年前から薬物濃度解析のチームを立ち上げ、現在は抗MRSA薬のバンコマイシンを対象として業務を行っている。バンコマイシンは効果的な濃度の治療域が狭く、腎機能障害などの副作用が出現しやすくなる濃度の中毒域が近

接している薬剤で、TDMを必要とする代表的な薬剤である。

### III. 業務内容

TDM業務は、医師の依頼を受けて、患者の性別、体重、腎機能、投与量、投与方法、血中濃度、採血時間のデータから専用の解析ソフトを使用して濃度推移を予測し、医師の目標とする濃度域に達するにはどのような投与設計が考えられるかの情報提供を行う。また、薬剤部でバンコマイシンが投与されている患者を調べ、標準的な目標濃度域から離れてしまうと予測された場合は、依頼が来る前でも医師への情報提供を行っている。今後は薬物濃度解析依頼箋を運用し、医師の依頼から薬剤部の情報提供までが記録として残り、情報管理の効率化ができると考えられる。

### IV. まとめ

これからも薬剤の適正使用の助けとなるような情報提供ができるように努め、患者の症状改善に貢献していきたい。

## 石巻赤十字病院業務支援－薬剤師の活動

薬剤部 祖父江 彰

2011年3月11日に発生した東日本大震災において石巻赤十字病院業務支援の薬剤師として派遣されたので報告する。派遣期間は2011年4月9日～15日の7日間であった。

石巻赤十字病院薬剤師業務支援では大きく分け

て院内業務とメロンパンチーム活動であった。院内業務では石巻赤十字病院は院外処方であったが、震災のため周辺薬局が被害を受け、開局していなかったため処方の多くは院内にて調剤していた。

そのため石巻赤十字病院では多くの人手を調剤